

グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No. 50号
2020.10

発行:NPO法人
みどりの市民
〒380-8553 長野市若
里 4-17-1 信州大学
工学部 UFO ながの
高木研究室内
発行人:高木直樹



with コロナの生活と SDGs 社会

NPO 法人みどりの市民 代表理事 高木直樹

コロナの影響で大きく生活が変わってしまいました。去年の12月に中国の武漢で新しい感染症が発生したと報道されているのには気が付いていましたが、その後の展開の速さと凄さには驚くばかりでした。最初はどうなものなのか分からず、分からないままに不安になり、中国でのロックアウトの強烈さに驚き、日本政府の対応のひどさに憤り、予想通りに春節の観光客で日本に波及し、クルーズ船でのクラスター発生とそれに対する対策の無能さでまた憤り・・・まさに一喜（一怒）一憂のままに春から夏を過ごしてきました。皆さんはどうでしたか？

コロナの影響で多くの人の命が奪われました。国民的に人気があったタレントもなくなりました。そのような悲しい出来事があったためか、マスクをして、ソーシャルディスタンスを取り、気を付けながら生活することは社会的に受け入れられているように感じますが、外国ではうまくいかない国も多くあります。マスクをする・しないで喧嘩になったり、コロナに気を付けて生活するストレスがたまっただけか様々な爆発的な暴力行為が発生したりしています。

今の新型コロナウイルスはいずれ克服されていくのですが、今後も新しいウイルスが突然変異的に発生し、今回と同じようにパンデミックになることは避けられそうにありません。新しい脅威と向き合っていかなければならないようです。そして気候変動の脅威もますます顕著になってきています。明るい未来をイメージすることよりも、暗い未来をイメージせざるを得ない時代になってしまいました。

身の回りを見れば、コロナの影響で自宅にいる時間が増え、ほとんどの仕事が在宅でできるようになりました。またセミナーや勉強会などのイベント物もWEB開催できるようになりました。with コロナの生活にも喜びは多くあります。家庭を大事にして、身の回りのささやかな喜びに目を向けることは、楽しい幸せをもたらすことが分かりました。豪華さを追いかけてたり、たくさんのモノを買うというバブル的な喜びを追わなくても幸せと感ずることができていることを理解できたのではないのでしょうか？地球に過大な負担をかけていた生活を見直すことは気候変動対策としても有効な生活だと思います。

SDGsでは**17のゴール**が明示されています。会社などが複数のゴールに向けて企業活動をしている旨を明示することで、企業イメージの向上を目指すような宣伝活動を行っています。もちろん企業ができることでSDGsをイメージしながら活動することは良いこと



です。しかしSDGsにはその基本的な概念としての「誰一人取り残さない」というキーワードがあることを忘れてはいけません。世界中のすべての人がきちんと生活できるように配慮をしながら資源や経済を動かしていくことが求められています。コロナの影響で内向きの生活になりがちですが、周りの人や遠くにいる人のことにも思いを巡らせて生活していきたいものです。

活動報告

報告 I 海ごみ対策リーダー養成講座を開催

海なし県である長野県は、日本海、太平洋へと流れる河川の上流県の責務として「信州プラスチックスマート運動」を推進しています。レジ袋の削減やリユース食器の普及に取り組んできたNPO法人みどりの市民は、この運動の協力登録団体として「海ごみ対策地域リーダー養成講座」を企画運営しました。

コロナ禍の8月30日、長野市のリサイクルプラザで参加人数を30人に制限して開催。講師の全国ネット運営委員長の中井八千代先生はオンラインで東京からの参加でした。高校生、企業、行政、NPO、団体、個人など多様な顔ぶれの受講生は、午前中に犀川河川敷でゴミ拾い。拾ったゴミの総計487点で軽トラック約1台。内訳はレジ袋、ペットボトル、農業用資材など、その多くは使い捨ての容器包装プラスチックでした。午後は



拾ったゴミの仕分け



東京の講師とオンラインで質問応答

中井先生による講義。参加者は世界の中の日本の現状を学ぶとともに、ゴミ拾いの体験から海なし県であっても海ごみの発生県であることを改めて知り、生活を見直し、何かしなければという気持ちを深めたようです。

1ヶ月後、講座参加者にアンケートを実施しました。その結果、「家族、知人に話した」「ゴミ拾いをした」など海ごみに関連した活動をした人は約8割。さらに「ペットボトルや使い捨てプラスチックを減らす取り組み」「システムづくり」などリーダーとして活動してみたいという積極的な回答が多く、講座の成果といえます。参加企業からは、講座で学んだことを「SDGsに結びつけた取り組みに活かしたい」、公民館からは「SDGsに関する講座開催したい」、小学校の先生からも「ゴミ拾い活動の開始、海ごみ学習予定」という報告が届いています。特に高校生は敏感に反応し、ゴミ拾いと気候変動を結びつけた活動が始まっています。

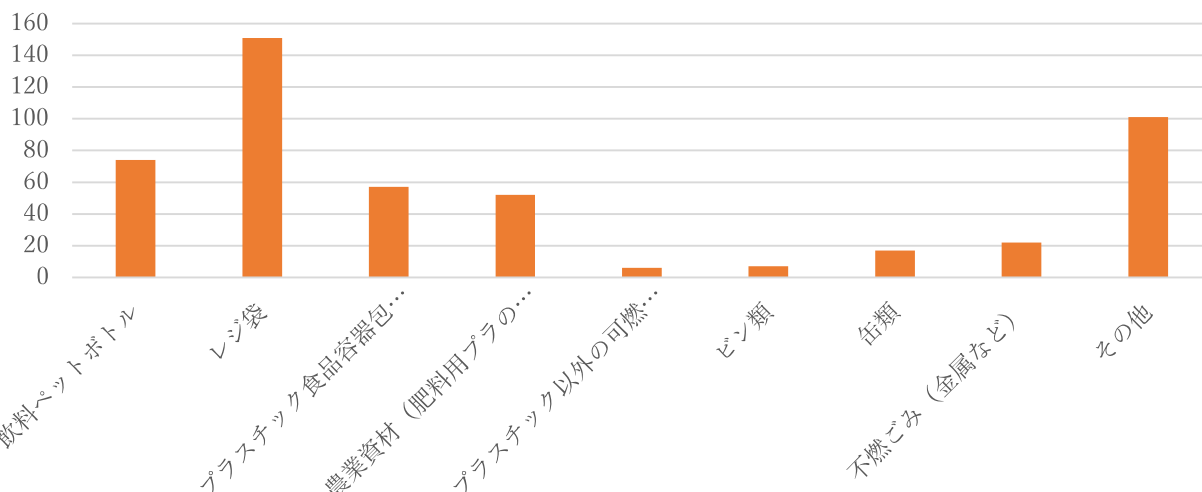
この講座で蒔いた種が、あちこちに芽を出し成長を始めています。みどりの市民も次のステップへ歩みを進めたいと思います。(報告：事務局長 渡辺ヒデ子)

(容器包装の3Rを進める全国ネットワークニュース 第219号 2020年10月20日掲載)

(報告：事務局長 渡辺ヒデ子)

(個数)

ゴミ拾い種類別集計



報告Ⅱ 生ごみの削減活動 ～台所から身近な環境への意識を～

これまで家事の食事作りをする中から、排出される生ごみに関心を持ち「もったいない」と思う食品廃棄に対して、改めて調理に工夫を凝らす日々を過ごしてきました。



平成 16 年の生ごみ減量アドバイザー養成講座を受講してからみどりの市民に関わっています。生ごみ減量、および段ボール利用の生ごみ堆肥化講座のアドバイザーの立場で、環境に配慮した調理をエコ調理として受講者へ伝えることに力を入れてきました。

昨年、2019 年 5 月、支え合い応援金を申請しパンフレットを作成しようと、生ごみ減量のためのエコ調理に深い関心を持つアドバイザーの仲間たちが集まり、令和元年にエコ調理プロジェクトを立ち上げました。メンバーはそれぞれ専門的知識を持つ頼もしいアドバイザーであり、第一回の編集会議をスタートとして、以来エコ調理冊子作りについて意見を交わし、レシピについて各自実習し、検討し合いました。

ところがこの年の 10 月、大型台風 19 号による大災害となり、調理実習・学習会&エコ調理講座を中止せざるを得なくなりました。さらに追い打ちをかけるように、新年になり新型コロナウイルス感染拡大による自粛生活が全国的に広がり、中断していた冊子作りの原稿レイアウト構成等と、見直し作業の段階でもそれぞれの立場で協力し、終盤の作業はたいへん多くの時間を費やすこととなりました。

こうして、～野菜からのプレゼント～の一行にエコ調理の工夫を盛り込んだ、ささやかながら思わず手に取りたくなるようなパンフレットが出来上がりました。多くの方々に利用していただき、食の見直し、ゴミの減量化へと向かう大きな広がりを感じています。

(報告：プロジェクトリーダー、生ごみ減量アドバイザー 小杉良子)

◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇ 【トピックス】 ◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇

「長野県脱炭素社会づくり条例」(通称：ゼロカーボン条例)について (10月19日施行)

長野県は脱炭素社会を目指して都道府県の条例としては日本で初めて条例を策定しました。

～以下、長野県のHPより抜粋し、紹介いたします～

【条例規定の背景】

地球温暖化に伴う気候変動や、プラスチック廃棄物といった地球規模の環境問題及びこれらに対し長野県が行った、G 2 0 関係閣僚会合における「長野県宣言」や、都道府県初の「気候変動非常事態宣言」等の取り組みを踏まえ、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする目標を掲げ、県民一丸となって持続可能な脱炭素社会づくりを推進することを期して、条例を規定した。

【条例の特徴】

- ・都道府県の条例としては初めて 2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする目標を規定し、持続可能な脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進。
- ・従来の 3R (リデュース、リユース、リサイクル) に加え、リプレイス (代替素材への転換) の推進を規定 (4R の推進)
- ・エシカル消費 などのこれからの社会に必要な新たな取り組みの推進について規定

【責務】

県：施策の総合的かつ計画的な推進 事業者：事業活動において自主的かつ積極的な取組及び県が実施する施策への協力 県民：日常生活における自主的かつ積極的な取組及び県が実施する施策への協力を責務として挙げている。

【主な施策】

- エネルギー自立地域の確立
- プラスチックの資源循環の推進
- エシカル消費の推進

週刊長野にみどりの市民が担当して「家庭から考える環境」（テーマは「家庭から持続可能な社会を」）のコラムが掲載されました（掲載日1月1日から2月1日5回）。今回、その記事を週刊長野の許可を得て、グリーンハーバー49号、50号で紹介しています。

「エシカル消費」って？

渡辺ヒデ子

家庭から考える環境 ③

渡辺 ヒデ子
(3R推進マスター)



今回は買い物から環境について考えます。毎日、食べたり、飲んだり、着たりしているものは、ほぼ誰かがどこかで作った商品です。日々の暮らしは買い物を通して、それを生産した人や商品とつながっています。商品を選ぶとき、「環境、人、地域、社会に対してフェアに公正であること」を「エシカル（倫理的消費）」といいます。その

ためには、商品がどのようにに生産され、どのような過程を経て自分の手元に来るか、など商品の裏

「エシカル消費」って？

途上国の生産者に配慮したフェアトレード（公正な貿易）商品を選ぶ、その土地で生産された地場産品を買う、動物に配慮して（動物福祉）平飼いの卵を選ぶ、毛皮の商品は購入しないなどがエシカル消費です。各商品には、生産地や環境マークが記されています。買い物の際は、値段だけでなくこうした表示を確認し、生産や流通の過程、消費した後のことなどに思いをはせることが大切です。日本が大事にしてきた思いやり、おたがいさま、もつたいないにも通じる考え方「エシカル消費」のことを、ほんの少し意識してみればいかがでしょう。それが持続可能な社会（環境）づくりにつながります。（みどりの市民事務局長）

家庭から考える環境 ④

清水 久美子
(環境カウンセラー)



私たちは日々、食品・日用品・衣類などさまざまな「もの」を消費しています。電気、ガス、灯油などの燃料や水道水も不自由なく使い、車でもこへでも移動し、快適な暮らしを手に入れています。私たちが消費する商品やエネルギーは、その生産、製造、輸送、販売の各過程で、さらに、使用後の廃棄でも回収運搬、

リサイクル、焼却、埋め立てなどの各過程で多くのCO₂（二酸化炭素）を発生させています。消費

暮らしをエコにスタイルアップ

「家庭で保有する物を増やさない」「すぐに「みになる物を買わない・使わない」「壊れたら修理・補修をして使う」「捨てる前にほかに使える用途を見つめる」を意識して行動することで、CO₂の排出だけでなく家計の出費も減らすことができます。孫やひ孫たちが暮らす未来の地球のために、豊かな国に生まれて先に資源を消費している者の責任として、知恵と自分エネルギー（ずく）を出して、簡単・便利・安価に流されない「エコな暮らし方」にスタイルアップしていきましょう。自身や家族でチャレンジする具体的な行動をリストにして、クリアした数で「褒美を用意するなど、ゲーム感覚で楽しく取り組めるといいですね」（みどりの市民会員）

暮らしをエコにスタイルアップ

清水久美子



昨年10月の台風19号は、猛威をふるい、災害の大きさ、被災された方々のご苦勞を思うと心が痛む。言葉では言い尽くせない。追い打ちをかけるように今年に入ると、新型コロナが凄まじい勢いで世界中を大混乱に巻き込み、未だ収束のめども立たず不安を駆り立てている。

こんな中、最近、自分が住んでいる地域で、恒例の「秋の地区一斉清掃」を実施した。コロナで地区の皆が集まると言うのはと、役員の方々は検討されたようだ。作業に取り掛かる前に、「こんな時期でもあり高齢者は無理しないように。出不足金も徴収しないので」と言われる。我が家の周りの世帯は皆、高齢者。せめて自宅周りだけでも話し合い、作業に取りかかった。道沿いの草を刈る。市の公共用ごみ袋に草を入れようとした隣人に、私はすかさず、「草はごみであってもゴミではないよ。畑の隅に置いて」と言って、すぐ脇の畑に自らその草を置いた。隣人は、袋を持って集めに来た人に、「太田さんが草は入れるなって、畑の隅に置けて」と大きな声で伝えている声が耳に入る。

折を見て、「草も、生ごみも、大切な資源である」「段ボールを利用して堆肥を作り、畑がなくてもプランターで花や野菜作りの楽しさ」を少しでもわかってもらえるよう伝えていこうと思っている。

コロナ禍に生きる私たち - 個人の意志・意欲実現の時代へ



矢ノ目 和樹 (会員：エシカルふえす実行委員会)

昨年12月、新型コロナウイルス：COVID-19 が流行し、日本経済、ひいては私たちの生活が大きく変わってしまいました。経済への影響では、新型コロナの影響を受けたとして業績予想の下方修正した上場企業は累計1066社、売上高として合計約9兆6264億8400万円の減少を見込んだとされています^[1]。我々の生活では、既に実感している通り、常時マスクの着用、外出の自粛、ソーシャルディスタンスなどこれまで自由に行われていたことが制限されてしまうこととなりました。

皆さんはこのコロナの影響をどう感じていますか？ 僕は「会いたい」とふと思った時にそれができない現状にどうしてもストレスを感じてしまいます。やはり“人との繋がり” というものは無くてはならないものだと感じます。

けれど、コロナによって気づいた良い面もあると思います。僕は、SNSやWeb会議システムなどの“ソーシャルメディア”を上手く活用することで、個人の意志・意欲が反映されやすい時代に進みつつあると思っています。例えば、先日行われた「海ごみ対策地域リーダー養成講座」は、Web会議システムを活用してオンラインで行いました。講演のオンライン化により講師の金銭的・時間的コストが下がることで、より多くの方々に声を届けられます。また、たとえ地理的に離れていたとしても、共通の課題に関心を持つ同志の間で団結して何か新しいムーブメントを起こすことだってできるかもしれません。“行動力”さえあれば、“意志”が実現する、そんな時代に進みつつあるのです。

私たちみどりの市民は、「ひとつの地球(ほし) ひとつの生命(いのち)」「いま、できることからひとつ、ひとつ」をコンセプトに掲げ、主に“循環型社会”、“エシカルな消費”を推進するべく活動しています。そんな私たちも、より多くの同志と繋がる、もしくは繋がる場を提供したい、そして、そんな方々が抱く“思い”や“意志”を実現できるよう、全力で支えていきたい、そう思います。

“人との繋がり”は無くならない。一緒に頑張りましょう！

[1] <https://response.jp/article/2020/09/05/338158.html>

みどり農園へ行こう！

みどり農園便りちよい報告

4月から始まったみどり農園の活動も、10月24日に予定していた大豆の脱穀が機械の故障というハプニングで1週間伸び、ようやく10月31日で畑の作業が終了。その間、春から夏、秋へと長雨、日照りと厳しい気候でしたが、飯縄山に見守られて育ったジャガイモ、トウモロコシ、カボチャ、大根、サツマイモはみどり農園のメンバーの食卓を十分賑わしてくれました。これもいつも世話をしていただいていた山口さんのお蔭です。感謝！！ 作業終了後、地主の橋本さんから美味しいりんごをいただき、皆大喜び。大豆も大豊作、今年も美味しい味噌ができそうです。！！



(詳細報告は後日 事務局W)

新理事 小池啓道さんの自己紹介

ごみの研究からスローライフに興味を持ち、いろいろな人や団体との交流を通じてフェアトレードや気候変動などに関わるようになりました。持続可能で幸せな社会を目指して「ハチドリの一とせずく」が広がるような活動をしたいと思えます。



お知らせコーナー



エシカル学習会 大地の卵 エコツアー

日時 11月21日(土) 10:30～12:00
場所 松代清野「大地の卵」
集合：旧長野電鉄松代駅市営駐車場
参加費 300円(卵土産付き・保険代)
持ち物 マイバッグ
締め切り 11月18日(水)
定員 20名(申し込み順)
コロナ対策：マスク着用

どんぐりるるネット会員募集

- ・会員は段ボール堆肥の実践をして、ケチャップ又は淡竹の水煮をゲット
 - ・生ごみの一次生成物は自宅まで回収に
 - ・新しい基材(竹チップ・パウダー)は自宅まで配達
- お友達を誘ってチャレンジしてみませんか？ 詳しくは事務局まで。
年会費A会員(個別回収配達) 1800円
B会員(拠点回収配達) 1300円

会員募集中 (年会費 3000円 賛助会費 2000円)

NPOは会員の皆さんの会費で運営(事務所経費、郵送料などの諸経費)されています。皆さんのご支援お願いいたします。

みどりの市民の会員数 現在 正会員 51人
賛助会員 9人

〒380-8553 長野市若里4-17-1 信州大学工学部
UFO ながの高木研究室内
TEL&FAX 026-269-5092
E-mail : midorit18@shinshu-u.ac.jp
URL <http://midorinoc.sub.jp/>



《編集後記》早いもので、工学部のキャンパスに来て3回目の秋を迎えている。学生ならばもう卒業。最初の秋は実りの秋の銀杏の黄色、去年は台風19号の避難所の支援活動に通った豊野小学校の紅葉の赤。今年はコロナによる感染が心配で人と会うこともままならない。浮かぶのはマスクの姿ばかり。コロナで心の色まで失わないようにしなければ。そして、学生のように私の卒業はいつになるやら...。(キャンパスの一隅にてH)